

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第3回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成21年7月9日(木) 午後3時35分～午後5時37分	
会場	練馬区役所本庁舎11階 1101会議室	
出席者	委員	村松賢一、苅部一夫、片柳博文、山口義一、加藤芳和、武井和幸、井上康子、武者裕子、三浦秀樹、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	谷川拓也 指導主事

部長

第3回小中一貫教育資料作成委員会表現力部会を始める。今日は表現力を身につけた子どもの最終的な姿を共通理解したいと思う。まず、事務局より資料の説明をお願いしたい。

（事務局より資料の説明）

資料1. 第2回表現力の育成部会 要点録～内容確認の依頼

資料2. 指導課よりの資料

- ①指導要領での表現力の扱いとアドバイザー先生の話の概要
- ②中央教育審議会答申での「表現力の育成」についての考え方
- ③表現力をⅠ～Ⅲ期に分け目指す子ども像を記入するためのひな形
- ④小中一貫教育資料作成委員会年間計画（案）～後ほど説明

資料3. 各委員からの資料

部長

Ⅰ～Ⅲ期のなかでⅢ期の子どもたちが表現力を身につけたときの姿をどのようにイメージするか掘り下げていただきたい。それぞれの委員は出していただいた資料の説明をお願いしたい。

委員

私は進路指導の部分で表現力を考えてみた。カリキュラムとして小学校、中学校をそれぞれ3つに分け、できるだけ具体的にどんなことができればいいかを挙げてみた。たとえば進路指導の自己理解の部分では中学3年は卒業後のことだけでなくもっと先のことまで話すことができるかなど、職業感、勤労感、体験的なものまで思いつくままに挙げている。

また、前回表現力は伝えるだけではなく双方向のものとの話があったが、考える上でかなり混乱を生じたため、伝える（発信する）方に絞っている。両方やるなら初めからきちんと区別する必要がある。

委員

教科と教科外で具体的に子どもにどういう体験をさせているかをまとめた。国語科であれば書くことよりもスピーチやプレゼンテーションなど話す方を指導している。教科外ならば自己紹介・自己PRや幼児、高齢者などとのコミュニケーションなど。中学1年だと個からの発信

が中心だが、2年、3年では対話・グループ協議、大勢の前でのディスカッションなどが国語の狙いとなってくるので、ほかの時間でも目標を置いてできたらいいと思う。

委員

(音楽では) I期は学ぶ楽しさを味わい、II期は自分からかかわり、学び方を学ぶ、そしてIII期は音楽を総合的に理解する時期と考える。III期ではパート練習を自分たちで行い、お互いにアドバイスなどもできるようになればいいと思う。最終的な表現の場として、簡単な卒業演奏会のような形で人前でも堂々と発表できる子どもを音楽を通して育てたい。

鑑賞でも想像力を膨らませながら聞き、感じたことを発表し、鑑賞文・批評文のようなものを表せるようになってほしい。そのためには小さい頃から基礎的な学習や技能を身に付けることも重要だと思う。

委員

(音楽では) I期は表現する楽しさを数多く経験することで、自己表現の意欲を高めていく時期と考え、右に具体的な児童の姿を表してみた。1・2年ではとにかく歌いたい、踊りたいなど思いを引き出し、たくさん経験させたいが3・4年では表現の工夫や他者との絡みなどの要素もあり、多少差があるので点線で区切っている。

II期はI期で身につけたものを基に自己表現の意欲を高めていくのではないかと考える。客観的に判断しながら歌唱表現、演奏の調節ができたり、他者との関係のなかで表現し、作りあげ、自信をつけながら次のステップにする時期だと思う。

委員

(図工・美術では) I期は楽しさを知ることで表現し、見る人との関わりで喜びを体験する時期だと思う。II期は見る側の立場に立って分かりやすく表現する基礎学力定着の時期。表現したことを伝える教科なので、意識して喜びを得、次に分かりやすく表現する。そのために必要な基礎的技能を書き表している。III期では作品を通し表現した内容を効果的に鑑賞者に伝える。

鑑賞の部分ではI期に他者の作品のいいところを見つけ、II期・III期ではそれを自分の作品に生かすということで、このあたりがコミュニケーション能力にかかわると思う。

委員

(国語では) I期は対話したり、グループで話し合う力を身につけ、司会を立てられるまで。II期は学級のなかで討論する力を付ける。III期になると学校全体などより多くの人たちの前で話したり、互いの考えを尊重した話し合いができるような力が大切と考える。

(算数では) I期は自分の考えや、分からないことをはっきりと言い表せることが大事だと思う。II期になると単に自分の考えを出すだけでなく相手を意識して分かりやすく説明することで、相手も質問できるし自分と相手の考えの良さを比べられるというようになるのではないかと。III期ではより分かりやすくプレゼンし、自分の考えを修正できれば素晴らしい。

委員

最終的な表現力を身につけた社会科における生徒像を考えてきた。社会科的な表現力としては説明、論述ができるということ。説明するというのは自分の考えがどんな社会科の資料を使い、どのような根拠で結論が導き出されたかを具体的論理的に伝えること。社会科の表現に関わる力とは根拠と過程を分かりやすく相手に論述できることだと考える。

部長

アドバイザー先生からも資料をいただいたのでご説明をお願いしたい。

アドバイザー

Ⅲ期にこんなことができればいいというイメージを持つにあたり、各教科で培う表現力である「論理的表現力」、挨拶・言葉づかいなどの「社会的表現力」、感情・感覚など思いや気持ちを表現することに重点を置いた「自己表現力」の3本の柱を考えた。「論理的表現力」は学習指導要領に則ってやるので、練馬区独自の表現力としては「社会的表現力」と「自己表現力」になると思う。

「社会的表現力」ではTPOに応じた言葉の使い分け、年長者との会話で自分から話題を提供できる、さらには自分や他人が困ったときに言葉で周囲の助言を求めるなどの生きる力に役立てることができるなどが目指す姿のイメージである。

「自己表現力」では自分探しや自己実現というのがキーワードだと思うが自分の感情や思いを最も効果的に表現する手段を何か見つけること。詩でも作文でもお笑い、演劇、音楽、ダンス、絵でもこういったものの中から何か見つけられないか。また、表現大会のような催しが練馬の一大イベントとして定着すれば子どもたちの張り合いにもなると思う。

ちなみに実際に絵を描いたり歌を歌ったりするのは「自己表現力」に近く、教科のなかでも音楽・美術は「論理的表現力」と「自己表現力」の二つにまたがってくるものと思う。

委員

私は特活の資料を用意した。発達の段階に即した指導の目安があり、話し合い活動というのが表現に一番関係があると思う。低学年では友達の話をよく聞いたり、自分の意見を言えるようにし学級生活を楽しむための集団決定ができる。中学年では異なる考えについてしっかり聞き、理由を明確にして意見を言えるようにし楽しい学級生活のために折り合いをつけて集団決定ができる。高学年では学級のみならず学校生活にも目を向け、自分の言葉で建設的な意見を述べ合い、多様な意見の良さを生かして楽しい学級・学校生活をつくるための集団決定ができる。これらが特活でのカリキュラム作りに役立つかと思う。また、捉えておきたい活動の観点として具体的な子どもの姿も描かれているので参考になるかと思う。

部長

一通り資料に基づき説明してもらった。いろいろな切り口がありなるほどと思うが、冊子のことをイメージすると全体像を考える必要があるか。事務局からは表現力の観点、アドバイザー先生からは3本の柱からご指導いただいた。今後どのように進めていったらいいかも含めご意見いただきたい。

アドバイザー

今回私たちが検討する表現力というなかに教科で培う表現力がリンクするという図が基本方針にあった。それとは別に教科外での表現力という図もあった。教科の扱いはどうなるのか。

事務局

イメージとして町田の資料の4ページ。縦に学年があり横に各教科、道徳、特活、総合がある。教科との関連をはかりながら、というのがイメージ。

部長

ことさら教科のことを部会で取り上げるのではなく、どうしても強く関連するところは取り上げてほしいという解釈だったが。

アドバイザー

教科の表現力は取り上げざるを得ないと思う。我々の示すプログラムの3本の柱の1つとすることで表現力の全体となる。参考として各教科の表現部分を集めて再編集し、特活・道徳・総合でこんなことをしたいと絞るのが1つの方法かと思う。

部長

マトリックス表について今日は話を進めないが、各自どんな形が望ましいか考えておいてもらいたい。今日の会議の目標である表現力の最終段階の共通理解をどう図るかについて意見をいただきたい。

委員

各教科の表現力を基盤としなければ「社会的表現力」も「自己表現力」もついてこない。それぞれの教科で達成すべき力がついた段階で、教科外では何ができるか考えた方が分かりやすいが、いま全教科のことを出し合ってもまとまらないと思う。

部長

今日は教科や教科外の立場すべてを網羅するのではなく、最終的にどんな表現力をもった姿になって欲しいかを言葉で表したい。ただその時にどうしても私が書かなければならないと思ったのは、表現する対象だ。

委員

カリキュラムをどんな形式や内容でと統一したものが、4つの分科会であるのか。

事務局

調整する。

委員

事前にある程度それを確認しておいた方が早いのではないかと。

部長

4分科会で合わせるにしても、うちの分科会としての考えを出す必要はある。私ひとりの考えですり合わせることはできないので、皆さんがよいと思うカリキュラムの形が必要だ。

委員

町田の資料の4ページをベースにすると、非常に端的で単元名的な表現となる。私はもう少し具体化した方がいいと考えており、どの程度書くかによって大きく違ってくると思う。

事務局

指導課で確認しているのはこれをモデルにして作ろうということだ。

部長

それとは別のマトリックスを作るのもいいと思う。

先ほどの続きになるが、子どもたちの具体的な表現する場面を想定したキーワードを書いていくことも共通しているように思う。今日この場で文章としてまとめるのは難しいと思うので次回までに目指す子ども像を考え、ひな形に記入してもらうのはどうか。

委員

資料で三つの学習期の内容が出てくるのは、このような内容で育てていくとこういう子どもができるというのが決められてからまとめられるのではないかと。教科が真中であって派生するものを考えればいいのかどうかがあやふやだと、各期でどんな表現力にスポットを当てればいいのか私には分からない。

アドバイザー

お互い分からないことはどんどん質問し合った方がいい。1つ伺いたいが音楽で中学3年の目標に「創作」というのがあるが実際に曲づくりなどをするのか。

委員

中1の段階ではリズム遊び程度で済むが、中3になって曲づくりとなると教える側もできない先生が多く、教科書内容に触れる程度で収まっている。進んだ学校であれば音楽や国語で創作コンクールをやっているが、基本になるリズム遊びや読譜等の積み重ねが小学校ごとに差があるという課題がある。小中一貫校であれば少しずつ埋まっていくと思うが、現状では指導者によって波がある。

アドバイザー

表現のなかの歌というのは既成の歌を歌い、演奏し表現するレベルで考えているのかと思っていた。本来、自分の思いを歌に込めて作れば一番いいし、指導要領でもそこまで求められ

ているのであれば、そういう「創作」活動も成り立つかと思った。

委員

中学校が600校あって、正直どこまでできるかなと思う。

委員

うちの学校では音楽で創作活動があり、生徒はすごく楽しんでいる。2年生ぐらいだと「今日はカレーだ。美味しいな、嬉しいな～♪」程度から始まって、童謡やワルツをつくったり、進んだ子なら毎年創作コンクールに参加している。

アドバイザー

小学校の音楽では「今日はカレーだ。～♪」みたいな歌づくりはしないのか。

委員

小学校の方がリズム遊びや短いメロディー創りなどやっていると思う。特に中学年の授業で多く、高学年では時数が減って難しい学校が出てくるが、旋律を創ったりパソコンで曲作りするのは中学校以上にやりやすい。

委員

うちの学校ではグループで分担した。楽譜や旋律がある訳ではなく、好きな楽器を選び、身体も使い、声も出して。イメージを表現するのに何が一番適しているか試行錯誤しながら、もったこうした方がいいのではないかと考えながらやっている。

アドバイザー

もう1つ『練馬の子ら』という作文集をずっと国語研究会から送ってもらっている。他ではないほど長い期間、熱心に続けていると思うが、練馬の小学校では伝統的に作文教育が盛んなのか。

委員

国語部が中心になり各校から各学年1点の代表作を出して、その中から選ばれたものを冊子にしている。長く続けている。

委員

中学でも作文集がある。

アドバイザー

練馬の作文が教科としてではなく表現の柱の1つとして売り物にならないかと思った。提案だが、今回出てきたものを教科でやるべきことか教科外の枠でやるべきことかなど、どういうふうに整理できるか考える必要がある。また、特別活動の提案や武井先生が1つの軸にしていた話し合う力は表現力と捉えていいのかなどの議論が必要ではないか。

委員

国語の観点から作ったものだが、教科外でも表現するには言葉を使うというのがあると思う。

アドバイザー

言葉で表現することは間違いないが、話し合う力は能力として大事ではあるが表現力とは少し違う。しかし、本来の表現力の規定から違っていても、私も含め皆さんが絶対必要ということならば1つの柱として表現力の枠組みに入れた方がいい。話し合う力を教科任せにせず国語を中心としながら各教科にも関わっていく。

委員

ぜひ入れていただきたい。国語の時間だけでは表現力や話し合う力、討議の力はつかない状況だ。発表の時も協議し、互いに助け合い、相手を説得して事を決めることが出来ないのが現実であり、自分のことの発信しかできないのでは物足りないと思う。

委員

学活で班ごとにいろいろ決める場面でも、何人かが提案してすぐそれに決まるといったように、話し合う力が今の中学生には欠けており課題となっているので、ぜひ入れてもらいたい。

部長

言語コミュニケーションをここで取り扱うかどうかということだが、今の子どもたちは語彙が少ないので言葉を豊富に使えるようにするという視点は大事だと思う。さらにコミュニケーションをする上では常に相手への気配り、相手との関わりを意識しなければならないこと。同じことを言っても言い方1つで対話や人間関係が切れてしまうこともある。

もう1つは言語コミュニケーションから外れるが、プレゼンなどで相手に分かりやすく伝えるために言語表現だけでなく映像や画像を使い、自分のメッセージにインパクトをもたせることができるよう、コンピュータなどのICTの技能も計画的に身につけていく必要があると考える。

委員

前回、表現をするために相手からひき出す力も必要との話があり、表現力をコミュニケーション力に広げて捉えるのは妥当と思うが、逆にそんなに広げて大丈夫かという不安もある。

最初に自分の思いを相手に分かりやすく伝えることから始めないとコミュニケーションはできないので、せまい意味での表現力を土台にして、さらにと考えた方がいい。

委員

前回、ひき出す力も必要と発言したが、中学3年生では難しいと分かりそこまで要求しない方がいいと考えが変わった。ゆくゆくは必要な力だが中学3年生が身に付ける力としては難しい。

委員

コミュニケーションでは受け止める力も要求され、受け止めて考えたことを表現するということだろうが、受け止める力は表現力とは言わないのではないかと感じる。

委員

話し合うという場面があることでいろいろなものが非常に作りやすくなるので、そういう場面は必要と捉えていいか。

委員

表現力を身に付けることができる場だし、話し合うには言わなければ始まらないという意味で場面としてはある。

委員

やりとりは大事だと思うが、この会ではとりあえず自分の考えを分かりやすく伝えるというのがメインではないか。練馬的表現力というのは本当の表現力として狙いたいのは双方向のものだが、今回は相手に伝える方を中心に考えていくという意味ではないのか。

話し上手を育てるには聞き上手を育てないといけないと思うが、カリキュラムを整理していく上では絞ってやるものと思う。伝えることだけに絞っても思考力や感受性を育てた上でどう表現するかという事になると思う。私の資料にも「的確に思考し表現する」と書いてあり、当然思考力のことも考えなければいけないが、それでは広がりすぎるのでそういったものを前提にして表現力について考えるのが一番妥当だと思う。

委員

表現をするためのスキルや知識があっても、表現したい物がなければ表現できない。カリキュラムを作るに当たっては子どもたちの気持ちや心を育てることも必要。表現したい物があり表現する手段をもっている、表現し聞いてもらう喜びを感じる、そういったものがあいまって表現力がつくのではないかと思う。

アドバイザー

同感だ。美術で何かを描かせるとき、本来生徒はこれがいいとか美しいと感じて描くが、こんなもの描きたくないと思っている生徒にどうやって描かせているのか。

委員

生徒のモチベーションを高めるために校内に全員の絵を貼り出し、絵は自己満足のためではなく、どうせなら見る人を感動させた方がいいという切り口で指導している。音楽の合唱コンクールなども同様だが、一生懸命やることで見る人や聞く人に必ず感動を与えられるのが芸術の楽しさだというように。

アドバイザー

自己完結的ではなくコミュニケーション的な感覚だと思う。

委員

皆さんの資料にキーワードと考えられるものがたくさんあるので、これからの話し合いで効果的にか相手の立場に立ってといったものが少しずつ出てくるのではないかと感じた。

部長

表現力の裏側に絶対必要な「思考力」というキーワードがある。今まで出たものでは「スキル」「相手意識」。短い言葉でキーワードを出せないか。

(各委員から出されたキーワード)

「表現大会」、「感受性」、「感動」、「社会的スキル」、「敬語」、「ICTスキル」、「訓練」(練習)、「習慣」

アドバイザー

はじめは伝える力で進み、そのうちコミュニケーション的なやりとりが出たが、広すぎるとまた伝えることに絞ろうと会が揺れているが、コミュニケーション的なやりとりというのは捨てがたい。説得的な表現力を考えると相手があつての話になる。伝達的な説得力、伝達的な表現力、説明的な表現力というような相手のある表現力という言葉もどこかに入ってくる必要があるのではないか。

部長

これまで出てきたようなキーワードの内容が本分科会で子どもたちに身につけさせたいものであり、取り扱う範囲という事を大筋で確認いただきたい。この先の年間計画を事務局に説明願いたい。

(事務局より説明・確認事項)

- ・第4回までに表現力のイメージを固め、第5回では大まかなカリキュラムの構成を作る。
- ・第6回以降報告書のような下書きを持ち寄り、第9回(11月か12月)に最終の原稿チェックを行い、来年度の方向性を固める。
- ・8月中に他の部会とのすり合わせ、マトリックスを確定する。

部長

今日、アドバイザー先生にご指導いただいた練馬的表現力の3つの柱を切り口にまとめたい。次回までにそれぞれが簡単なものでも考えてきていただきたい。

委員

表現力で裏打ちされるキーワードをもっと具体的に考えれば何か見えてくるのではないか。

委員

部長先生は表現力を支える下部組織としての構成要素を挙げてみたらどうかというお話で、アドバイザー先生は表現力をどの範囲まで広げるかとどめるかという範囲の話だと思います。皆さんが表現をどのレベルまでと考えることで、我々が対象とする範囲も決まってくるので

はないかと思う。アドバイザー先生の資料もどちらかというと表現力を支える要素で、私たちの考える表現力の定義というものが必要と思う。

アドバイザー

感動を伝える表現力と、思考力に裏打ちされた表現力には別々のスキルがあり、表現の目的も違う。大きく分けると感性的なものと論理的なものが2つ、それ以外に定型を覚えなければならない敬語、日常の挨拶などを念頭に資料を整理したつもりだ。

部長

片柳先生は次回に要素などをみんなでもっと深めた方がいいという提案か。

委員

その通り。表現力の豊かな子がどんな力に支えられているかを考えてもいいと思うし、皆で表現力を支えるものはこんなものというのを持ち寄って作業するのはどうか。そして最終的に定義を考える。

部長

今日の話を受けて表現力とは何かという事を自分なりにまとめてくるという提案だが。

委員

自分の教科に立ち返らずにか。

部長

教科に行くとまたバラバラになるかもしれないので、立ち返らず簡潔に。

委員

「表現力とは伝え合う力だ」「伝え合うとは相手を意識して説得できることが1つの要素」といった説明になっていればいいのではないか。

委員

この場で自己表現を主に考えようと言っていたが、伝え合うとなるとやりとりで考えるのか。

委員

伝え合うとは違うと思う。どうしてもやりとりで考えるというならば個人の判断で決めればいい。

委員

練馬区が出している表現力の育成の文章を踏まえる必要があるか。

部長

文章の解釈の問題になるのでこだわらなくてよい。部会で考えた表現力はこうだということを前面に出した方がいい。

(第4回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認)

7月27日(月) 13:30～ *予定場所を変更。後日、事務局より通知。

部長

予定時間を大幅にオーバーした。次回もよろしく願いたい。